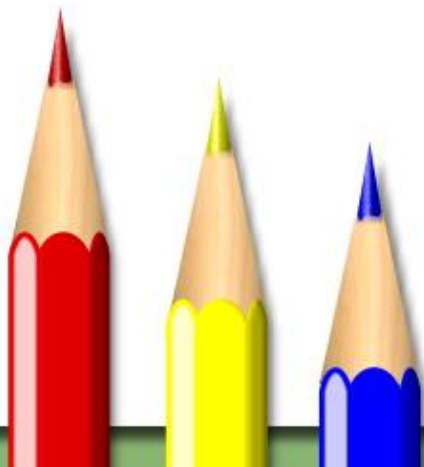




## 強アルカリイオン電解水による剥離作業手順書



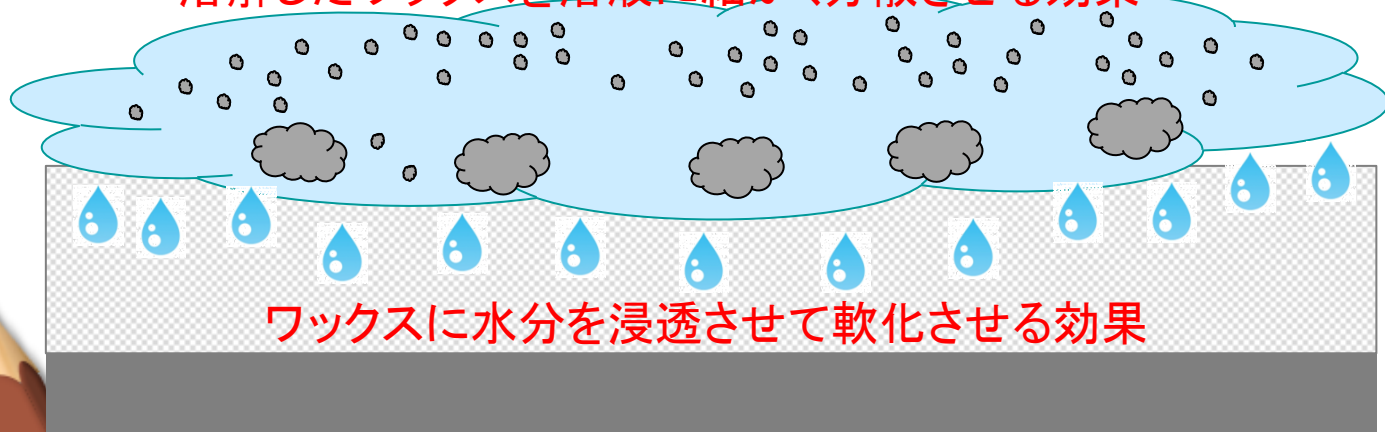
# 剥離作業時にイオン水が及ぼす効果

古く、厚く堆積したワックス被膜は硬化していて、剥離剤を弾き受け付けません。よって、溶解作用が遅々として進行せず、大半の剥離溶液は本来の役割であるワックスの溶解に携わることなく乾燥し、回収され廃棄されてしまいます。

## そこにイオン水を添加すると…

- ・イオン水のアルカリがワックス被膜に水分を差し込み軟化させます。
- ・水分を含み軟化することで剥離剤成分の浸透が促進されます。
- ・溶けたワックス分の粘性を取り除き、溶液に分散させることで溶解反応が促進されます。
- ・一度塗布したワックス溶液のスタミナ(ワックスを溶かす力)を使い切ることが可能となります。
- ・無駄な繰り返しの追加塗布作業を撲滅することで、作業時間、剥離剤使用量、剥離廃液の排出量を削減する効果があります。

## 溶解したワックスを溶液に細かく分散させる効果



## ワックスに水分を浸透させて軟化させる効果

# ① 剥離溶液を作る

① 剥離剤をメーカーの指定倍率にしたがいペール缶に注ぐ。  
使用量は右の早見表を参照。

倍率	使用量
5倍	2.8L
10倍	1.4L
15倍	0.9L
20倍	0.7L

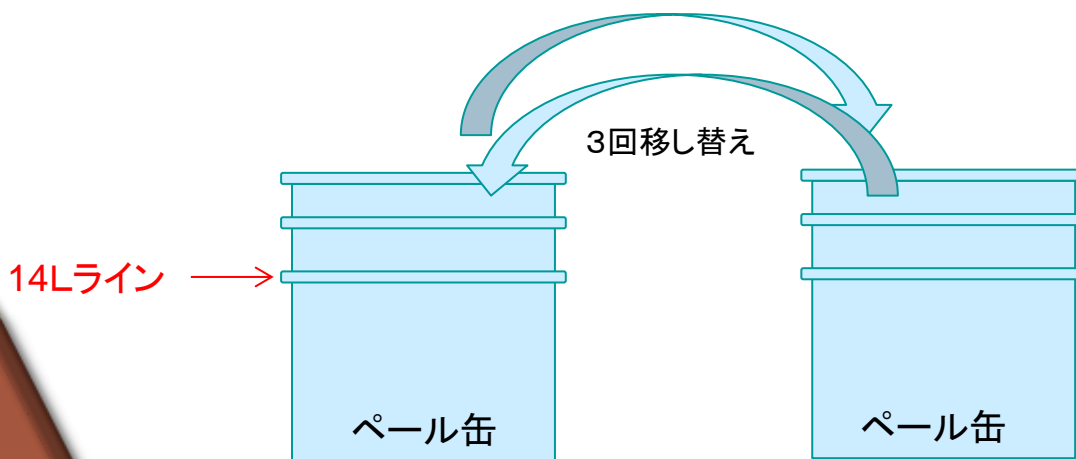
② イオン水pH13.1を2Lペール缶に注ぐ。  
・常に使用量を一定に決めることで作業を簡便化しエラーを防止します。

③ ペール缶の14Lラインまで水道水を注ぐ。  
・簡単に正確な倍率の剥離剤を作ることが出来ます。

④ 空のペール缶に全量移し替える。再度、元のペール缶に戻す。再度、空のペール缶に戻す。  
という移し替えを3回行うことで「剥離剤」「イオン水」「水道水」が完全に混合させる。

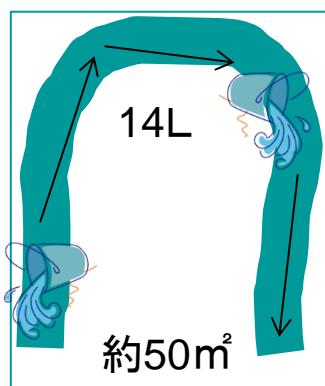
※モップを突っ込んでの攪拌は絶対ご法度！モップ糸に剥離剤が吸収されて混ざりません。

ここで出来た剥離用液**14L**が**約50m<sup>2</sup>**に塗布する量となる。  
その日に使う剥離剤は**面積に応じて可能な限り作っておくこと。**



## ② 剥離溶液を塗布する

- ① 50㎡の面積を取り囲むように14Lの剥離溶液を途切れないように床に直接落としていく。
  - ・大量にこぼしているように見えるが、50㎡に必要な量を落としているだけです。
  - ・ワックスの塗膜を溶解するためにはそれに応じた剥離溶液量が必要です。
- ② 剥離溶液の無い場所に立ち、自在ホウキを使用して塗り広げる。たっぷりと水溜りを作るようなイメージで水膜が途切れないようにする。
  - ・モップで塗布すると溶解したワックスが糸に絡みつき均一な水膜を作ることが出来ない。
  - ・モップを剥離溶液入りのペールに浸すと、糸に絡みついたワックスが混ざり剥離溶液がどんどん劣化してしまいます。
- ③ 可能な限りの面積に剥離溶液を塗り続け、漬け置き時間を稼ぐ。
  - ・剥離作業で大事なものは剥離溶液の溶解反応時間を十分に確保することです。
  - ・どんどん剥離溶液の塗布面積を広げていくことが大事です。
- ④ ドライバックするまで絶対に触らない。立ち入らない。最低20分間は漬け置きする。
  - ・イオン水のワックス軟化の効果で剥離剤の浸透反応効果が促進されています。最後まで剥離成分を使い切りましょう。
  - ・カチカチに固まるほどのドライバックは論外だがゲル状にドライバックして乾いたように見えるのは正常な反応です。
  - ・途中で水を撒いたり、漬け置きの中に塗布エリアに立ち入りスミコスリなどを行うのは絶対にご法度。踏んだり、擦ったりしてしまうと剥離溶液の水膜に穴が開いて、必ずそこに取りきれないワックスが残ってしまいます。



### ③ ポリッシャー作業

#### ① タイネックスブラシをポリッシャーに装着する。

- ・ポリッシャー作業の本質は剥離溶液と溶解したワックスを**攪拌し混ぜ合わせる**行為です。
- ・溶解されていないワックスを削り取ろうとするのは**時間の浪費**に過ぎません。
- ・黒パッドやハイプロパッドは目詰まりを起こした瞬間に剥離溶液を押し流すスクイジーのような働きをしてしまい、剥離溶液が喪失した乾燥箇所を作ってしまいます。
- ・**削るのではなく攪拌し混ぜ合わせるのが目的**とするならばパッドよりもブラシが最適です。

#### ② ポリッシャータンクに水道水10Lとイオン水200ccを注ぐ。

- ・ポリッシャーでの攪拌時に使用する打ち水にイオン水を混ぜることで溶解反応が促進されます。

#### ③ ポリッシャーで攪拌作業を行います。

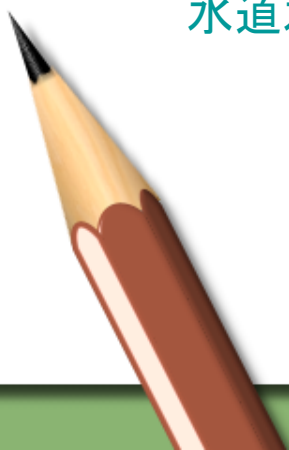
- ・最初からタンクインした打ち水をやみくもにまき散らすことはご法度です。
- ・ブラシで丁寧に攪拌していき、**どうしても粘々して混ざり合わなくなったタイミング**で打ち水を落とします。



水道水10L



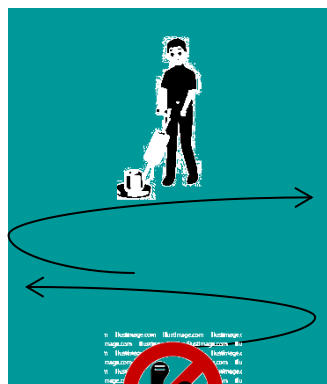
イオン水200cc



## ④ 回収とスミ擦り

- ① 溶解反応が終了したエリアから剥離污水を回収していく。その際にスミ擦りが必要なエリアの剥離溶液は残して置くこと。
- ② 污水が回収され、足場が整った状態で残した剥離溶液を使い**最後にスミ擦り**を行います。
  - ・最も膜厚があるスミは最も漬け置きが必要ですので最後に擦ります。
  - ・途中で剥離エリアに立ち入り溶解反応が不十分な状態で擦っても意味がありませんし、踏んだ箇所の溶解反応を妨げてしまいます。
- ③ ワックスの取り残しが無いことを確認しモップで水拭き。

ポリッシャー作業員以外立ち入り禁止



スミを残して污水回収



最後にスミ擦り解禁

